

参加費無料

[会場]大阪産業大学  
多目的ホール

申込み: [maroon\\_180cm@yahoo.co.jp](mailto:maroon_180cm@yahoo.co.jp)  
(お申し込み、名前、所属、人数をお知らせください。)

主催: 大阪使教会(認定NPO法人日本を美しくする会)

3/22 SUN  
2015  
13:00 開演  
(12:30 開場)

# ヴァイオリン・プロジェクト 「千の音色でつなぐ絆」 震災復興 チャリティ講演&コンサート

## プロジェクト概略・発案・意義

このプロジェクトは、東日本大震災の被災者支援のために、ヴァイオリニストの中澤宗幸氏が発案者となり、被災地で生まれ育った木材でヴァイオリンを製作し、賛同する仲間達とともに、その楽器の演奏を通して被災された方を励まし、亡くなられた方に、鎮魂の祈りを捧げることを目的としています。

ヴァイオリン製作に使う木材は、津波で無残に流され、瓦礫と化してしまった流木です。

震災前、家の床柱や梁に使われ、被災地で暮らす人々の過去が刻まれた木を弦楽器として蘇らせ、千人のヴァイオリニストがリレーのようにその楽器を受け継ぎながら、千の音色を奏でていくプロジェクトです。

日本の伝統には、心の底から願いを叶えたいときに行われてきた千羽鶴の慣習があります。

また、千手観音の千本の手は、どのような衆生をも漏らさず救済しようとする、観音の慈悲と力の広大さを表すといえます。

千年に一度の大震災ともいわれましたが、千という数字を、被災地で亡くなられた方々へ向けた無数の祈り、被災された方々の無数の希望として託しました。

そして、流木で作られた楽器は、この震災の体験が風化しないように永きにわたり、ヴァイオリニストからヴァイオリニストへと託されていく、人と人との絆のシンボルとなります。

演奏家が被災者の方々への祈りを込めて、それぞれの場所でそれぞれの音色を奏で、演奏仲間間に楽器をリレーしながら、絆の輪を広げていきます。

被災地で成長した子供たちが、この楽器を演奏するようになった時点で、このプロジェクトを一区切りとする予定です。

それまでには、楽器に千人の演奏家の音色が弾き込まれ、楽器自体が歴史を刻んで成長していくような長い時間を要します。

その間に、被災地域の環境整備も進むと思いますが、健やかな心の環境をも整えていくことにお役に立てることが、プロジェクト参加者の思いです。

こんな想いからヴァイオリンプロジェクトとジョイントし  
東日本復興チャリティー講演とさせていただきます。

## ヴァイオリン演奏

[プログラム]

メヌエット / ボッケニーニ (戸田)  
ヴァイオリン協奏曲第3番第3楽章 / サン・サーンス (戸田)  
チゴネルワイゼン / サラサーテ (吉本) ほか



**戸田 晴花** 4歳からヴァイオリンをはじめる。第15回大阪国際音楽コンクールAge-E2第2位。第23回日本クラシック音楽コンクール小学校低学年の部第5位。尼崎市立武庫東小学校4年。



**吉本 梨乃** 2003年生。第68回全日本学生音楽コンクール大阪大会小学生の部第1位。泉州キワニスクラブ賞。第19回KOBE国際音楽コンクール最優秀賞。神戸市立向洋小学校6年。



●ピアノ伴奏  
**富岡 順子** 大阪音楽大学卒業。同大学院修了。ポワティエ(仏)夏期音楽大学にて、ベルリムテール、バルビゼ各氏に師事。大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団と演奏。

## 講演

**佐藤 敏郎**



1963年宮城県石巻市生まれ。東松島市立矢本第二中学校主幹教諭。防災、国語を担当。震災当時は、女川町立女川第一中学校に勤務。震災後の5月、生徒たちそれぞれの想いを五七五に込める俳句づくり授業を行い、テレビ・新聞等で話題に。また、大川小学校の遺族として「小さな命の意味を考える会」を主宰し、HPや全国の防災講演でさまざまなメッセージを発信している。女川さいがいFMのパーソナリティーとしても活動中。

楽しく学び、遊んでいた、大好きな大川小学校でたくさんの子どもが犠牲になりました。

あの日から私たちはずっと考えています。  
子どもたちの小さな命が問いかけているものはなんだろうと。

遺族はもちろん、関心を持っている方すべて  
市教委や検証委員会のみならず  
ずっと考えているのだと思います。

小さな命の問いかける意味は、深く、重い。それに向き合いたいと思います。  
(小さな命の意味を考える会HPより)